

秘封るる部

秘封るる部

東方

2

諏訪版

諏

訪



かいたんのゆめ
All around the world from OITA

CONTENTS

秘封るる部 諏訪



表紙上：御柱体験ひろば
表紙下：諏訪大社下社秋宮
目次左：習焼神社

最近、東方界限では元ネタがわかりやすいという事で諏訪旅行が流行っていますが、諏訪大社は茅野市という常識に囚われて茅野駅で下車してしまい、神社行きのバスが無くして哑然としてしまう事件が多発しているようです。さらには、せっかく諏訪に行っておきながら昼飯はマッ○で済ませ温泉にも入らず帰ってくる残念な人たちがたくさんいると聞いています。

「行ってみただけでなんかよくわからんまま絵馬だけみて帰ってきました！」というのは非常にもったいない！ … ということで、どこがどういう風に関係してるのかをまとめたガイドブックを製作いたしました。

界限の定説などが中心ですので必ずしも「公式情報」に準拠してはいませんが「ネタとして」楽しんでいただければと思います。

サークル：かんたんのゆめ NT/fiv

内容についての注意

- サークル「上海アリス幻楽団」様の東方 Project に関する研究本、の皮をかぶった「諏訪本」です。
- 名前のモデルになった本とは一切関係ありません。
- 漫画や小説ではありません。読み物のようななにか。
- モデルやモチーフに関しての解釈は、自己研究やネット上での解釈（定説）を参考にしたものであり、その全てが「公式情報」と言うわけではありません。
- 注意はしておりますが、もしかしたら致命的な間違いをしている可能性もあります。また、そんな間違いを見つけたらお気軽にご指摘ください。
- あまり深くは掘り下げてませんので、もっと濃い話が知りたいという場合はググるなり図書館なりで調べてみてください。
- この本の内容は 2009 年 10 月に発行したものです。移転などの重要な点についての補足は極力行っていますが、基本的には古い情報になっていますのでご注意ください。最新情報などは各自でご確認ください。

いわゆる「巡礼」についての注意

- 地域のお寺や神社、要するに観光寺院でない場所も含まれています。
- 多人数で回る際はつついはいはしゃいでしまわれると思いますが、くれぐれもみっともない行動は自重しましょう。
- いわゆる「痛絵馬」等の行為は自重しましょう。これは絵馬にキャラクターを描くこと自体が問題なのではなく、「内容が周りに配慮できていないものが多い」ことが最大の問題です。
- 常識を守って楽しく巡礼！

目次

1. まえがき

2. オープニングアクト (文：さんさん)

6. 諏訪交通ガイド (画：片瀬)

9. 諏訪幻想案内 巡礼編

10. 諏訪地区地図

12. 諏訪市

18. 茅野・富士見周辺

22. 下諏訪・岡谷周辺

28. 姫川流域周辺

31. 姫川流域地図・長野県簡易案内

32. 七つの石と七つの木

34. 諏訪のグルメを楽しもう

36. 諏訪の温泉を楽しもう

38. 御柱祭 2010

42. 取材の楽屋裏

43. 諏訪幻想案内 歴史と信仰編

(画：おのけい)

44. 諏訪のでんせつ

50. 諏訪大社の歴史と信仰

52. 守矢神社の神様たち

54. 聖地巡礼の向こう側 (文：東村 光)

56. 諏訪取材を通して

58. 後書・ゲスト紹介他

諏訪市



●かみしゃほんみや

上社本宮

諏訪 訪大社四社のうち一番規模が大きく観光客も多いのがここ上社本宮。正面には土産物屋が軒を連ね、大型バスも出入りして平日でも活気がある。祭神は建御名方神だが本殿はなく、御神体は背後の守屋山といわれる。東方に関係あるものも非常に多く集まっており、巡礼にここは欠かせないといえる。境内正面の宝物殿にもいろいろな社宝が収蔵されており、諏訪大社の知識を深めたい人はぜひとも寄るべき。宝物殿は上社のみ¥500、上下社共通券¥800円。諏訪大社の起源はよくわかっておらず、延長五年（927）に纏められた延喜式神名帳には南方刀美神社として記され、当時から信濃国一の宮として深く信仰されていたことが伺える。



Check 1 御沓石

【おくつし】

土着神「七つの石と七つの木」

諏訪七石のうちいくつかが本宮境内に存在している。「御沓石」は案内板に表記はないが、一之御柱の後ろにある注連縄のかけられた石がそれである。諏訪明神の「沓（くつ）」の形、もしくは神馬の足跡が残るといわれている。また後方には、江戸時代の国学者が突き立てたという「天の逆鉾」がある。（七石七木→P 32）



由緒ある石のところにこんな扱いに...

Check 2 上社筒粥殿跡

【かみしゃつつがゆでんあと】

忘殺「アンリメンバードクロップ」（神奈子）

天流水舎の横に存在するもほとんどの人は素通りしてしまう。それは、実は古くは上社でも行われていた「筒粥神事」の遺構であり、石囲いの火地炉が残されている。宝暦年間（1752〜1763）の記録ではまだ行われていたが、文政二年（1819）「信濃国昔姿」の時点で中断されていた模様。



「アンリメンバードクロップ」とは、「忘れられた作物」の意。たぶん関係あるんじゃないかな...？（諏訪七不思議→P 49）

Check 3 天竜（天流水舎）

【てんりゅうすいしや】

天流「お天水の奇跡」

天竜「雨の源泉」（神奈子）

この建物の屋根の穴（よく見るとなんか筒があるの見える）からは、どんなに晴天でも水滴が三滴落ち、その水を持ち帰って雨乞いをする、と必ず雨が降ると言い伝えられる。その水滴は「お天水」と呼ばれる。手前の小さな社は井戸。昔の絵巻などでは水があふれ出ているように書かれていた。（諏訪七不思議→P 49）



海苔業者から信仰を集める

Check 4 蛙狩神事

【かわすがりしんじ】

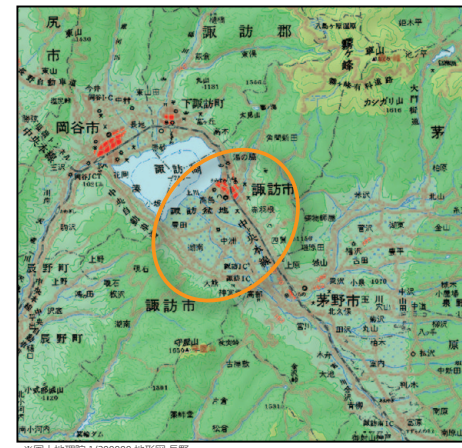
蛙狩「蛙は口ゆえ蛇に吞まるる」

土着神「宝永四年の赤蛙」（諏訪子）元旦の早朝に行われる。「蛙狩神事」は、御手洗川に掛かる階橋で行われる。川で冬眠中の蛙を探し諏訪明神へ奉納するこの神事は、諏訪子が蛙の姿であることと関係がある。



毎年必ず蛙がみつかる七不思議のひとつ

宝永四年元旦の蛙狩神事では、大晦日の大雨により川が洪水となり、神事どころではない状態であったが、なんと神前に三匹の蛙が居たため、無事に神事を執り行えたという。また、同年富士山が噴火している。（諏訪七不思議→P 49）



※国土地理院 1/200000 地形図 長野



幕府から内匠の称号を許された名匠二代立川和四郎富昌の代表作。左片拝殿にみる臺股から脱化した粟穂に鶴の彫刻は写生に倣した富昌の至芸。

Check5 硯石



土着神「七つの石と七つの木」
(諏訪子)

諏訪明神の警座とされ、布橋の途中にある四脚門の正面からみることが出来る。名前のとおり石の上部に凹みがあり、その穴には常に水を蓄えているという。そしてこれも諏訪七石のひとつ(七石七木→P32)

Check6 蛙石(本宮)



土着神「七つの石と七つの木」
(諏訪子)

また石か。すみませんまた石です。蓮池の一番端にちよこんと顔を出すのが蛙石。らしい……というのも、この近所に蛙石がもうひとつあるのだ。そっちは看板が整備されているのに対してこちらは何も無い。そもそも複数あるとどういうことなの……？(七石七木→P32)

雷電像

(いらいもん)



諏訪明神ことタケミナカタは国譲りの力比べの伝説から「相撲の神」ともされる。像のモデルとなった「雷電為右衛門」は長野県東部町(現・東御市)出身の江戸時代末期伝説の大関で、勝率96%を誇る最強力士という。知っているのか雷電！の人とはたぶん別人。

四脚門

(しきやもん)



本宮で一番古い建造物。拝殿の脇にあり、慶長十三年(1608)徳川家康が家臣に命じ、国家の安泰を祈願して寄進したもの。その正面には硯石がある。



まあそれっぽいといえばそれっぽい



最近少し動かされたらしい

DATA

時 9~17時(社務所) 境内自由
住 諏訪市中洲宮山1
車 諏訪IC2キロ・上諏訪駅7キロ 茅野駅4キロ
P 200台
交 アルピコ交通(茅野大熊線)「神社前」すぐ(平日のみ・かんちゃんバス「諏訪市博物館」神社前すぐ高速バス「諏訪インター」2キロ)



↓ 諏訪市博物館方面



●ふじしまじや

藤島社

宮から500m程度北に行った高速道路沿いにある。諏訪大社の末社のひとつで、上社の御作田神事が行われる神社。岡谷の藤島社と共に諏訪大戦で諏訪明神が陣地を構えた伝説のある場所であり、諏方大明神絵詞ではこちらが紹介されている。もともとは宮川に近い位置にあったが、区画整理により今の位置に移転している。藤島の由来は洩矢と諏訪明神の戦いにある、明神が藤の枝(鳶)で洩矢を降伏させたあとそれを投げたところ、この地に藤が根付いたという。



御作田神事の様子
紫いにしえ絵巻 諏方大明神画詞より

御作田神事は右の田んぼで行われる

DATA
●車 諏訪市中洲5999付近
●交 諏訪IC3キロ・本宮0.5キロ
●P なし(本宮から徒歩推奨)



●おほほうりてい

旧大祝邸(大祝屋敷)

現 人神とされた大祝が住んでいた館。とはいへ、大祝「諏方家」が断絶したのは平成14年とごく最近のことであり、神職最高位とされた位も明治維新にて失っていたため、住まい自体はエアコンも付いた普通の現代の家である。現在は廃屋となっているが諏訪市の管理下になり、ゆくゆく整備されて公開される予定となっている。諏訪市博物館に屋敷の復元模型が展示されているので、見比べてみると良いかもしれない。



立派な門が当時の栄華を象徴する

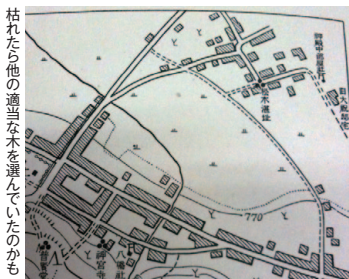
Check 松湛木跡

「まつせんぼくあと」



土着神「七つの石と七つの木」

(諏訪子)
諏訪七木のひとつが大祝家にあったといわれる。といっても実ははっきりしておらず、文献によつて場所や名前が違っていることもある。とりあえず諸説あるうちのひとつとして諏訪市の文化財ガイドブックに載っていたここを取り上げてみる。
(七石七木→P32)



枯れた他の適当な木を導いていたのかも

DATA
●車 諏訪市中洲1606
●交 諏訪IC3キロ・本宮0.7キロ
●P 数台
●交 かりんちゃんバス「どんだん橋」すぐ・他本宮参照



●すわしはくづかん

諏訪市博物館

諏訪の時間、自然、信仰の散策をテーマとした博物館。本宮の真正面にある。諏訪の歴史と風土についての展示が中心となっている。



中は撮影禁止なので注意

DATA
●車 諏訪市中洲1712
●交 本宮参照
●P あり
●時 9時〜16時半



●かわずいし

蛙石

高 島城建築の際に庭石にするために運んできたといわれる石で、諏訪七石のひとつ。どこから持ってきたものなのかはわからない。七石としては先に紹介した本宮蓮池内の蛙石の方が有力な様子。



蛙石はどですとかと聞けばここが返されるが。

DATA
●車 諏訪市湖南1523付近
●交 本宮徒歩10分

SUWAガラスの里

【すわがらすのさと】



日本最大級のガラスのミュージアム。館内には体験工房もあり、自分の絵が入ったオリジナルのガラス工芸品などを作る。アール・ヌーヴォー、アール・デコ、ガラス工芸コレクションの北澤美術館新館を併設。

【住】諏訪市豊田2400-7 【P】あり
【交】KRCバス/スワンバス「SUWAガラスの里」すぐ
【¥】¥無料（体験実習代別途）
【時】9時～18時 【休】木

信州風樹文庫（岩波茂雄記念館）

【しんしゅうふうじゅぶんこ】

※諏訪市サイトより引用



岩波書店から出版される昭和22年以降の全図書を所蔵する日本唯一の専門図書館。岩波書店の創立者岩波茂雄は諏訪市中洲の生まれである。

【住】諏訪市中洲3289-1 【P】あり
【交】諏訪インターより車5分、JR上諏訪駅よりバス20分（中金子農協前下車）【時】10時～18時
【休】月・祝日・月末平日・年末年始ほか

立石公園

【たていしこうえん】



手長神社の裏手、標高933mの地点にある下諏訪～岡谷～上諏訪の諏訪湖全体を見下ろせるスポット。信州のサンセットポイント100選にも認定されている。

【住】諏訪市大字上諏訪10399 【P】あり
【車】国道20号元町交差点より3キロ・県道40号沿

DATA

【住】諏訪市四賀普門寺53806
【車】上諏訪駅4キロ・諏訪IC3キロ
【交】からんちゃんバス（茶臼山四賀線）アルビオン交通「白狐入口」8分・（上社有賀線）「四賀普門寺」10分
（手長さまと足長さま）

神社からは桑原郷が望める



長様として親しまれる。この付近（上桑原）一帯の桑原郷の総鎮守であり、もともとは手長様と一緒に祀られていたが、桑原郷が上桑原と下桑原に分けられた際、下桑原に手長様を祀る手長神社が造られ、それぞれの郷の鎮守の神となったという。

DATA

【住】諏訪市茶臼山95556
【車】上諏訪駅1.2キロ
【交】上諏訪駅徒歩10分（郵便局前から階段あり）
（手長さまと足長さま）

階段に続く階段



もともとは足長神社に足長様と共に祀られていた手長様を祀る。高島城の鬼門であり諏訪藩家中の総鎮守となっていたおかげか境内は割と大きい。麓から243段の石段があり、小宮御柱祭のときは御柱を曳いて駆け上がる。（手長さまと足長さま）

DATA

【住】諏訪市湖岸通り2
【車】上諏訪駅1キロ・諏訪IC6キロ・岡谷IC9キロ
【交】上諏訪駅徒歩15分・バス「間欠泉センター」前すぐ
（手長さまと足長さま）

ヒート・間欠泉の制御は空



●すわかんけつせんたー
諏訪湖間欠泉センター
昭和58年（1983）、温泉を掘ってたら突然間欠泉が噴出した。当時は50mの高さまで自噴し、世界2位の高さとうたわれたが、だんだんと小さくなり、今では5mほどになってしまった。現在、コンプレッサを使って上部の冷えた温泉を取り除くことによって噴出間隔を制御している。また、センターの中では温泉たまりを作ることが出来る（たまごは売店でお買い求めください）え？地底につながる穴とかそんなもんはないですよ。

※非想天則にて「古の間欠泉」（諏訪子）が登場。



立石公園から見た諏訪湖 左が上諏訪温泉街で右が岡谷市街



●すわこ

諏訪湖

諏訪 訪といえは諏訪湖。海拔759m、湖周15.9キロ、まごっことなき諏訪のシンボル。実は水深は割りと浅く7m程度しかない。流入河川は31あるが、流出河川は天竜川ひとつ。古くは諏訪盆地全体が湖であったといわれ、江戸時代頃は高島城が湖畔にあり諏訪湖の浮城とよばれていたが、干拓により湖は小さくなっている。上諏訪付近に初島という小さな島があるが、これは昭和29年（1954）に花火打ち上げのために作られた人工島。高度成長期の排水増加により湖が富栄養化し水質が悪化、アオコの大量発生や悪臭などで一時えらいことになったが、現在ではかなり改善された。上諏訪から白鳥型遊覧船が二つと、おぎのや諏訪店から全国的にも珍しい水陸両用バスが運行されている。



昼間はこんな感じ



葛飾北斎 景勝奇覽 信州諏訪湖

2

●やちぎんじや

八剣神社

御 神渡りの拝観報告神
事を担当する神社。

もともとは高島城の位置に
あったが村ごと移った。

DATA
● 諏訪市小和田13-18
● 上諏訪駅1キロ ● P 数台
● 上諏訪駅徒歩15分



ぶつかけると特筆すべきことが無い

Check 御神渡り

「おみわたり」

神符「神が歩かれた御神渡り」(神奈子)

諏訪湖が全面氷結して氷が迫り上がる現象。御神渡りが起き
なかつた年は「明けの海」と呼ばれる。亀裂の方向でその年
の作柄や吉凶を占い、結果を上社と気象庁に報告している。
高島城方面から下諏訪方面に伸びるものを「一の御渡り」、二
の御渡り、それと交差するように伸びるものを「佐久の御渡
り」と呼ぶ。明治時代一時期途絶えたが、現在まで550年
以上観測を続けており、地球の継続的な気象データとしても
世界的に有用視されている。(諏訪の伝説↓P48)

亀裂の名称



下諏訪

岡谷

上諏訪

佐久の御渡り
一の御渡り
二の御渡り



最近では明けの海が多い

●たかしまじょう

高島城

文 禄元年(1592)に築城され、諏訪氏の居城
として明治まで使用された。かつては諏訪湖畔
の水城であり「諏訪
湖の浮城」と呼ばれ
日本三大湖城のひと
つだが、現在では埋
め立てにより諏訪湖
からは離れている。
現在の天守閣は昭和
45年に復興されたも
の。城内は企画展示
コーナーや歴史展示
などが行われる。



干拓により諏訪湖は遠くへ

Check 亀石

「かめいし」



土着神「もつ石ともつ木」(諏訪子)

高さ50センチ、幅1.2m、厚
さ70センチ、重さ800キロの
石。諏訪七石のひとつといわれ
、もともと千野川神社にあったが
洪水で流され、百年くらい後に
下流で発見。高島城の庭石とし
て城に運ばれ、廃藩置県時に民
間に払い下げられていた。平成
19年に保管していた人が市に寄
贈し、130年ぶりに城内に戻
ることとなった。(七石七木↓
P32)



水をかけると模様が鮮やかになるなど

DATA

● 諏訪市高島1-20-1 ● 9時~17時半 (冬季16時半)
● 上諏訪駅1キロ ● P あり
● 上諏訪駅徒歩10分・かりんちゃんバス高島城すぐ

●おんせんじ

温泉寺

正 式名を臨江山温泉寺といい高島藩諏訪氏の菩提
寺。高島藩主諏訪忠恒が泰嶺玄末を開山として
建立された。高島城から門や能舞台が移設されている。



扉は閉まっているので見えない

Check 多宝塔

「たはつとう」

温泉寺の一番奥に当たる少し
高台のところにある。中には
石造の「鉄塔」が収められて
いる。これはもともと上諏訪
神社(諏訪大社上社)の御神
体であり、本宮の神居に置か
れていた。明治の神仏分離に
より撤去放置された後、ここ
温泉寺に移された。多宝塔の
周りには寺にもかかわらず御
柱が立つ。

DATA
● 諏訪市湯の脇1-21-2
● 上諏訪駅1キロ ● P あり
● 上諏訪駅15分



●おんぼしらたいけんひろば

御柱体験ひろば

2 010御柱祭にむけて2010年末までの期間
限定で東洋バルブ跡に開設された。上社仕様・
下社仕様・曳行用
の3本の御柱が設
置されており、上
に乗ったりするこ
とができる。御柱
祭についての解説
パネルも用意され
ている。



※期間限定のため終了済。

DATA

● 諏訪市湖岸通り5 (旧東洋バルブ)
● 上諏訪駅1キロ ● P あり
● 上諏訪駅徒歩10分

連休の昼前に行ったら誰もいなかったでござる

姫川流域周辺



※国土地理院 数値地図 250 mメッシュ

帯だったという面影はなく、ただ荒れた河原が広がるのみとなっている。

●7・11水害

平成7年(1995)7月11日。周辺の集中豪雨が原因により姫川が大反乱を起こし、土石流や地すべりが多数発生した。前年開通したばかりの国道バイパスにある新国界橋は、土石流により200m下流へと流出。並行するJR大糸線も橋梁流出や路盤埋没が相次ぎ、中土駅が土砂で埋まるなど被害の大きかった小滝、南小谷間とは2年以上にわたり運行休止となった。また、平岩地区が孤立し、川沿いの集落を浸水させた。

立し住民500人がヘリコプターで救助されている。

その後平成8年(1996)12月、国界橋付近の蒲原沢で再び大規模な土石流が発生。橋の復旧工事現場および治山ダムの建設工事現場を巻き込み14名が亡くなる事故が起こる。付近の国道沿いに慰霊碑が建立されている。

諏訪と姫川

このように、姫川は建御名方神の生まれた場所としての伝承がある。また、諏訪大社の神事も姫川流域をさかのぼり、新潟県との境で行われるものがある。ので、諏訪とは少し離れた地にはなるが、本誌で同等に取り上げることとした。

姫川の由来

姫川の名前は古事記に登場する「奴奈川姫」に由来する。奴奈川姫は糸魚川市付近を治めていた豪族の娘で、大国主から求婚されてそれに答えた。そして二神の間に生まれたのが「建御名方神」である。地元の伝承では、建御名方神は姫川をさかのぼって諏訪へ入り、諏訪大明神となったと言われている。

姫川

(ひめかわ)



源符「厭い川の翡翠」(諏訪子)

長野県白馬村にはじまり、新潟県糸魚川市の日本海へと注ぐ延長60キロ足らずの姫川。その名には優雅な印象があるが、その実態はしばしば深刻な大水害を起こす、全国有数の暴れ川のひとつである。

姫川と災害の歴史

姫川流域は地盤の緩い箇所が多く、記録では少なくとも江戸時代から、何度も深刻な地すべりや土石流・水害を引き起こしている。ここ100年間で多次のような大規模な水害が起こっている。

未明。中流にある稗田山の北側の斜面が突如崩落した。山だったものは支流の浦川を周りの集落ものとも押し流し、外沢付近の姫川をせき止めた。これにより高さ65mの天然ダムが出現し、川沿いの集落を浸水させた。

●稗田山崩れ
明治44年(1911)8月8日

その後ダムを開水した際の水は、すぐ下流の北小谷村の中心部来馬集落をすべて飲み込んだ。現在も北小谷付近は穀倉地帯だ。



北小谷付近の広大な河原



奴奈川姫と建御名方命の像

Photo by Gurren
CC BY-SA 3.0 JP

※ダブルスボイラーでまんまな『姫川「プリンセスジェイドグリーン」』が登場。また、茨歌仙では稗田山崩れがモチーフかもしれない天然ダムの話が登場。



● ひめかわげんりゅう

姫川源流

白 馬村の南、佐野坂と呼ばれる場所に姫川の源流が存在する。姫川は古くは青木湖とつながっていたが、この付近の土砂崩れにより寸断されたという説もあり、これらの湧水は青木湖から染み出しているのではないとも言われている。この時点では「厭い川」の姿はまだまったく見えてこない。

DATA
 時間 なし ※但し園内に照明はない
 住 北安曇郡白馬村神城
 車 豊科ICより45キロ・糸魚川ICより50キロ・国道148号沿
 P 1000台（白馬さのさかスキー場）
 交 大糸線南神城駅 徒歩10分



荒神の森から静かに始まる500キロあまりの厭い川



● ひすいきよう

ヒスイ峡

糸 魚川市にある姫川支流の小滝川は、世界的にも珍しいヒスイの産地。しかしこの地でヒスイが発見されたのは実は昭和13年（1938）のこと。当時日本にはヒスイの産地はなく、古代の勾玉はすべて輸入された原石から作られたと見られていたが、越後の女王奴奈川姫の神話から糸魚川にヒスイの産地があるのではと考えたのが地元出身の詩人「相馬御風」だった。助言を受けた「伊藤栄蔵」が小滝川を調査したが、そもそも伊藤氏は「ヒスイを見たことがなかった」ため、現在も存在する大塊でさえスルーしてしまう。その二日後再度搜索した際に、「見たこともない青いきれいな石」を発見し、これを採取して御風へと届けた。これは考古学上の大事件となった。山を越えた青海川沿いにもヒスイ峡がある。



川も綺麗な翡翠色。原の持ち出しは禁止！

DATA
 住 新潟県糸魚川市小滝
 車 糸魚川ICより17キロ・国道148号小滝からヒスイ峡方面看板・
 P 10台程度
 注意 小滝から先離合困難・冬季閉鎖

● おあみすわじんじゃ（ふるみやじんじゃ）

大網諏訪神社（古宮神社）

御名方命の生誕地と呼ばれる場所。母である奴奈川姫がこの地に産屋を建て、その周りに漁に使う「大きな網」を張り巡らしたのでこの地が「大網」と呼ばれるようになったと言われる。毎年2月に大網火祭りという伝統行事が行われる。



Photo by 小谷村観光連盟



DATA
 住 小谷村北小谷9323付近
 車 糸魚川IC 22キロ・平岩駅2・5キロ P あり
 交 平岩駅より村宮バス北小谷線8分（土休日運休）



● なかたにおあみすわじんじゃ

中谷大宮諏訪神社

旧 小谷郷総社であり、小谷地区の諏訪信仰の中心の神社。式年雑鎌打ち神事の出発点であり、こ



こから県境の境の宮・小倉明神へと出発する。雑鎌お守を作っているが現地に行くよりサイトからメールで問い合わせたほうが早い気もする。

DATA
 日の沈む直前に行ったらすごく神秘的な雰囲気だった
 住 小谷村中ノ13628付近
 車 糸魚川IC 35キロ・南小谷駅3・5キロ P 若干台
 交 南小谷駅より村宮バス小谷線中土局下車 徒歩10分



ソースカツ丼

本来もう少し南の伊那地区の名物だが、諏訪でも割と普通に食べることができる。



峠の釜めし

鉄オタには知らぬものはいない駅弁の定番。横川駅が有名だが実は上諏訪駅で購入できるほか、諏訪インターの近くにおぎのやドライブインが存在する。



うなぎ料理

岡谷市は「うなぎのまち」。マスコットは「すわ湖太郎」。ガールフレンドがいるがなぜか好きなものはいちごパフェ。最近萌えキャラもできた。しかし実はうなぎは愛知s。

これは喰え！

信州そば

長野といえば信州そば。諏訪でもそば店はあちこちにみられる。しかし正直一番値段と味のバランスがよいのは茅野駅構内の駅そばだと思った。



みそ天丼

諏訪のご当地グルメとして有名かもしれない。その名の通り天ぷらに味噌ダレをかけた丼。諏訪市と下諏訪町の18の店舗で食べることができる。



寒天

諏訪地域は寒天の産地であり、特に茅野市は日本一の角寒天の産地として有名。前宮前の松木寒天などが有名。寒天の日の日付制定理由が何とも言えない。



【茅野駅構内】

白樺

蕎麦屋といっても実は茅野駅構内にある駅そば屋。しかし騙されたと思って食べてほしい、駅そばなのになかなか侮れない味をしている。改札外にあるので切符は要りません。

【住】茅野市ちの 3506 (茅野駅)
【P】市営駐車場有 (3 時間無料)
【交】茅野駅構内
【時】? ~ 19 時



【茅野駅前】

かんてん茶房 きれい

茅野駅前にある寒天料理専門店。実は茅野市は寒天の里 (R)。おいしくてヘルシーな創作寒天料理がいろいろ食べられる。おみやげに寒天クッキーもどうぞ。

【住】茅野市ちの 3502-1 【P】あり
【交】茅野駅徒歩すぐ
【時】11 時 ~ 19 時
【休】水・第三木



諏訪のグルメを
楽しもう!!

ファミレスや
ファーストフードじゃ
もったいない!

【上諏訪駅前】

れすとらん割烹 いずみ屋

創作豆腐料理の店でもあり、とうふ田楽とかとうふグラタンとかある。そばや馬刺しなど地元の味も。利き酒セットで諏訪の銘酒5種類を飲み比べできる。2階に座敷があるので宴会も可能。

【住】諏訪市諏訪 1-2-4

【P】なし（近隣に有料Pあり）

【交】上諏訪駅徒歩すぐ

【時】11時～15時・17時～21時半



【茅野前宮】

茶処 山里

前宮本殿のすぐ下に9月にオープンしたばかりの茶処。「ゆっくりしてってね」がコンセプト。店の窓から本殿やその周りの景色を見ながら休憩できる。コーヒーやあんみつなどのほかざるそばもある。

【住】茅野市宮川 2056

【P】前宮

【交】前宮本殿前 【時】不定

【休】不定（12～2月は休業予定）

【Twitter】maemiyamazato



【上諏訪高島城】

みそ茶屋 千の水

地元の味噌蔵である丸高蔵が経営する味噌の食堂。味噌カツや味噌うなぎなど、自社製の味噌を使った料理が食べられる。アンケートに答えるとミニ味噌がもらえる。

【住】諏訪市高島 1-8-30

【P】あり

【交】上諏訪駅徒歩 10 分

【時】11時～14時 【休】月



【上諏訪駅前】

ごちそう処 きむら

和食や中華料理をはじめ、季節の野菜の創作料理も楽しめる。ご飯はおかわり自由でおかずも食べ応えがあるのでがつつき食べたい人に最適。

【住】諏訪市大手町 1-14-5（諏訪シティホテル成田屋 1F）

【P】シティホテル成田屋

【交】上諏訪駅徒歩 5 分

【時】11時半～13時半・17時～22時

【休】火



【下諏訪駅前】

チャボ食堂

下諏訪駅前の商店街にある大衆食堂。メニューにチャボカツ丼なるものがあるが、実はチャボ肉ではなくひな鳥も肉。ソースチキンカツ丼である。

【住】下諏訪町広瀬町 5312

【P】なし

【交】下諏訪駅すぐ

【時】11時～14時・17時～19時半

【休】水



【諏訪インター・下諏訪役場】

ハルピンラーメン

上諏訪駅裏発祥という諏訪発のラーメン店。甘辛い独特な味で人気がある。元祖の諏訪店と新しくできた下諏訪店では味が違う。

【諏訪本店】

【住】諏訪市四賀飯島 2336-2 【P】あり

【交】諏訪インター割とすぐ

【時】11時～24時

【下諏訪役場前店】

【住】下諏訪町西鷹野町 4750-1

【P】あり

【交】諏訪インター割とすぐ

【時】11時～22時（金・土・祝前日0時）



【岡谷湖畔】

水門

岡谷の有名ななぎ店。外はバリバリで中はふっくらとしたうなぎ。値段は高めだがぜひ味わっておきたい。

【住】岡谷市湖畔 4-1-30

【P】あり

【交】岡谷駅 1.5 キロ

【時】11時半～14時半・17時～20時半 【休】木



【下諏訪秋宮】

山猫亭

秋宮真ん前（本店）とそのすぐ下（大社通り店）の2箇所に店舗を持つ手打ちそば屋。数量限定のデザートそばちもうまい。

【住】下諏訪町大社通り 5528-1

【P】あり

【交】下諏訪駅徒歩 5 分

【時】11時半～15時・17時半～21時

【休】火



諏訪の

でんせつ

諏訪には諏訪明神にまつわるいろいろな伝説・伝承が残っています。

それらをまとめた本が「諏訪のでんせつ」「諏訪の民話」「諏訪のむかし話」の3部作なのですが、現在絶版となっており手に入れることが出来ません。

そこで、本に掲載されているエピソードから興味深いものをいくつか要約してまとめてみました。

個人入手は今のところ難しいですが、諏訪地区の各図書館にはすべて揃っていますので、興味のある方は読んでみてください。ここに載せられなかったものにも「あれ?」と思うネタが仕込まれています。

お明神さま

諏訪明神ことタケミナカタは、出雲でタケミカヅチと力比べをして負けてしまい、諏訪まで逃げてきたという逸話があり、古事記にも載る有名な話である。諏訪信仰の基本中の基本なので流れを漫画化していただいた。わかりやすいように神奈子の姿で再現したがいろいろな意味で怒られそうな気がしないでもない。ちなみに作中の手形石は見つからなかった…前宮周辺のどこかにあるようなのだが…



この国を
おさめていたのは
オオクニヌシと
いう神さまでした

むかしむかし
日本が
できた頃の話

オオクニヌシには
二人の子供がいて

やさしい兄は
コトシロヌシと
いい

気性の激しい妹を
タケミナカタと
いいました



ある日
日本を創った
天空の神
アマテラスは
言いました

「これから
この国は
わたしが治める
事にするから
土地を渡しなさい」



さっそく使いを
オオクニヌシに
送りました

オオクニヌシは
話を聞くと
すぐに従いました



兄のコトシロヌシも
父に従いすぐに
国を渡しました



聖地巡礼の向こうがわ 東村光

「聖地巡礼」

という言葉を知らずに、この同人誌を手取る人はきつといいなと思います。アニメやゲームのモデルとなった地域を実際に訪れるということは最近流行しはじめたように見えますが、実のところ結構昔からあったのです。例えば田舎の駅に置いてあることが多い「駅ノート」を覗いてみると、『ドラマや漫画の影響を受けてこの土地を訪れました』というコメントが結構目に付くかと思えます。こうした動きがいつ頃から始まったのかということは、今ではもう正確に特定することは出来ませんが、古い作品で言えば「究極超人あゝる」のモデルとなった飯田線沿線や、「セーラーMoon」の元ネタの一つでもある氷川神社などの例があり、ここ数年で突然盛り上がったムーブメントというわけでは決していないのです。

おそらく最近の感覚で捉えられる「聖地巡礼」として、ある地域が大きく取り上げられるようになったのは、「おねがいシリーズ」の舞台となった木崎湖からでしょう。おねがいシリーズの第1作目となったおねがい☆ティーチャーが放送された02年は、あゝるやセーラーMoonの頃と違って、「大きいお友達向け」としてのアニメが制作され、作品を補完する情報がインターネットを通じて簡単にやりとり出来る時代になっていました。

「おねがいシリーズ」のコンセプトの一つに、木崎湖周辺という舞台を忠実に再現するという点があります。これにより作品中に描かれたシーンと同じ風景が現実に見えるようになりました。これは二次元の世界を実際に訪れることが出来るようになったということです。そしてファンが行った「巡礼」の様子をウェブ上で公開することで、連鎖するかのようにな木崎湖周辺に「おねがいシリーズ」の面影を求めるファンが急増し、「大メッカ」として記憶されるまでになったのです。

木崎湖周辺に次いで、大きな「聖地」となったのは白川郷です。ここは「ひぐらしのなく頃に」の舞台として聖地認定されました。白川郷での「聖地巡礼」は木崎湖周辺の聖地巡礼と比べて一歩進んでいます。それは聖地に巡礼した証を残すことが出来るようになったからです。

白川郷には古手神社のモデルとなった白川八幡神社があります。聖地を訪れた巡礼者は、白川八幡神社に参拝することを通じて、本来は実在しないはずの古手神社参拝を体験します。そして参拝した証として絵馬を奉納することで、巡礼した証を聖地に残すことが出来るようになったのです。

さて、聖地巡礼という言葉の広がりに合わせて、徐々に巡礼の作法も広がっていきました。例えば巡礼地への足として、最もふさわしい手段は痛車でしょう。週末になると鷺宮町などの有名な聖地では、必ず痛車の姿を見ることが出来ます。また巡礼コースに神社があれば、そこには数

多くの痛絵馬が残されていることでしょう。これらの痛絵馬は、後から聖地を訪れた巡礼者たちにより「発見」され、ウェブを通じて瞬く間に知れ渡ります。そして痛絵馬を見た人が新しい痛絵馬を奉納するというスパイラルが繰り返されているうちに、痛車で聖地を訪れ、痛絵馬を残すというパターンが広がっていきました。

東方風神録の舞台にもなった諏訪大社は、上社の前宮と本宮、下社の春宮と秋宮の四社を中心とした大きな神社です。今では痛絵馬は諏訪大社の至る所で目にすることが出来ます。

痛絵馬を残すという行動にはどのような意味が込められているのでしょうか？ おそらくその殆どは「せっかく聖地まで巡礼に來たのだから、記念に残していこう」というくらいの軽い気持ちで奉納されていることではないでしょうか。しかしこのようなことが許される時代になったのは、つい最近のことなのです。

気が付けば「萌え」という言葉は、誰もが一度は耳にしたことのあるまでに広がっていました。そして「萌え」という言葉が知られたことにより、今まではひたすら隠されてきた「ヲタク趣味」が、少しずつながら目に付くようになってきました。高価な車にキャラクターをデザインし堂々と街中を走り回る痛車が、大量に存在することが受け入れられるという社会の変化は、古くからのヲタクにとつてとても信じられない時代がやって来たとも言えるのです。

普通の絵馬に混じって「萌え絵」のキャラクターが奉納されているという状態は、一昔前の感覚で捉えるとインターネットで晒され炎上するだけの「燃料」となってしまっていたことでしょう。しかし今では聖地に神社があれば、そこに痛絵馬があつて当たり前とも言えるまでに増えています。

痛絵馬を残すと言うことは、奉納した人にとっては「記念」として残す以上の深い意味はあまりないのかもしれませんが。しかし痛絵馬がイタズラとして撤去されずに残されている背景には、「萌え」を初めてするヲタク趣味がようやく世間から認められたという社会的地位向上があり、「萌えている」ことをどこかで主張したいという気持ちが込められているのではないのでしょうか。記念に残すだけであるのなら、文字だけでも出てしまします。こっそりと分かる人だけに分かるフレーズを仕込んでやるだけでも充分です。

わざわざ目立つ絵を描いて（しかも手の込んだレベルの高い絵馬も珍しくはありません）、見えるように奉納しているという行動には、その人の原作に対する想いが託され、表現されているのです。

しかしどれだけ「萌え」が広がったとしても、誰もが好意的に受け止めてくれるわけではあり

ません。また「萌え絵」の絵馬が許されているからといっても、神社という場に奉納するのですから、表現はある程度は自制しなければいけません。鷲宮神社では、聖地巡礼として訪れた参拝者のマナーが良かったからこそ、地元から好意的に受け入れられ、「らき☆すた」を町興しの一貫として取り込むという試みが成功したのです。聖なる地を巡るのですから、相応の礼儀を持って巡礼に取り組んで下さい。そのような心がけは、痛車や痛絵馬などの楽しみごと神社や地元から受け入れられるための追い風となるはずです。

聖地巡礼とは、原作の雰囲気を感じ、本来は入れないはずの「二次元の世界」を「体験」するという大人の遊びです。そして痛車や痛絵馬が集まることで、「聖地」がヲタクにとつてより一層特別な場所となっていくます。つまり聖地とは、ある意味で異空間でもあるのです。それは風景としての二次元の世界が実際に目の前に表れた空間であり、原作というコンテンツの中でしか通用しないはずの世界観を共有出来る「日常から少し離れた空間」です。

もしかすると聖地巡礼のゴールには、ヲタクが夢見る二次元の世界、すなわち幻想郷に繋がっているのかもしれませんが。私たちはいつか辿り着つけるかもしれない幻想郷を目指して、今日も聖地を巡礼し続けるのです。



「聖地巡礼」という言葉は、ご存じの通り本来は宗教上の「聖地」とされる場所を巡るストイックな行動を指しています。私たち同人ヲタクは、春夏秋冬（春：例大祭、夏：コミケ、秋：紅楼夢、冬：コミケ）いかなる時期でも、どんな天気でも朝早くから会場の前で延々と待機を続け、狭い会場内をくまなく歩き、時には再び列に並びとても一人では抱えきれない膨大な量の本やメディアを苦勞して持ち帰えるという苦行を積んでいます。もしくはイベント直前はひたすら徹夜を繰り返し、必死に薄い本を作り上げるといいう修羅場に自ら飛び込んでいきます。同人活動は目的が汚れた修行とも言えることでしょう。

同人という趣味ほどストイックなものは他にないことでしょう。今はアマゾンでクリックすれば、自宅警備に集中しながら欲しい品物を手に入れることが出来る時代です。そんな便利な世の中にもかかわらず、たった一冊の薄い本のためにわざわざ人の多い即売会の会場に向き、汗と金を流しながらようやく手に入れるという経験を積んだ人も少なくないはずです。

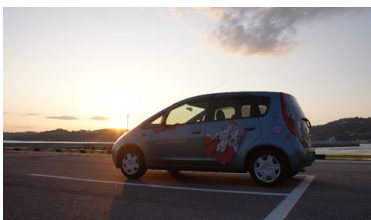
私たちは、方向性がダメなだけの聖者です。世間からは下らないことと切り捨てられてしまいかもしれません。それでも私たちはヲタクであることをやめられないのです。普通の人から見ればなんの変哲のないただの風景が、ゲームやアニメの背景として使われるだけで、ヲタクにとっての聖地となります。もしあなたが民間人から「そんな場所に行つて何があるの？」という質問をされた時は、胸を張つて答えましょう。「そこには聖地がある」と。

「フェイトは文学。CLAMPは人生。東方は宗教」という有名な言葉があります。まさに私たちはZunという偉大な神主の足跡を追つて、聖地を巡る巡礼者なのです。東方という宗教を信じているのです。聖地を巡礼するうちに二次元と三次元の境界を超えられる日がやがてやってきます。それは聖地巡礼の終着点、すなわち幻想郷に辿り着くということなのでしょう。



▲ 木崎湖では、おねがいシリーズが地元を受け入れられた

▼ 地元が率先して聖地を盛り上げた鷲宮神社には、らき☆すたののぼりも立っている



東村光 (ひがしむらひかり)
秋葉原大学准教授 (萌学) 評論・情報島出身。
06年夏のコミケ参加を契機に、同人活動を始める。
高校向け教科書「萌学B」の編纂に携わるの傍ら、買ってきた同人誌を読む作業に忙しく、いつまで立っても作業を進めないままにいる。
まさに「作る作る詐欺」を地で行っている軽犯罪者。

